

してはこれまで通り共同主催者として、また科研費申請等の協力が依頼された。また、本年度2回目となるが、試行的に岩手県盛岡市で実施する予定であることが報告された(23年3月開催予定。なお今年度2回の実施はコロナ禍で過年度の情報展が中止・延期になったための例外的開催となる)。

- ・学術大会業務の多くを外注にしたことによりLOCは少人数でも大会実施可能となったので、情報展だけでなく学術大会も開催地の分散化を進めていく必要があるという意見があった。
- ・博物館などでは学術的に裏付けのある行事が求められているので、情報展の活動の場を広げることに賛成との意見が出された。博物館等で受け入れる場合に受入れ側の負担には何かあるかという質問に対して、第一には場所の提供であり、スケジュール調整等で協力をお願いしたいとの回答があった。経費負担に関しては、開催地に経費負担をお願いすることはなく、科研費が採択されれば、学会、産総研の負担も小さいとの意見があった。
- ・情報展と同時開催している市民講演会について、現在、市民講演会と情報展をセットにして科研費申請を行っているため、市民講演会の扱いを今後議論する必要がある。過去に市民講演会だけでは科研費採択率が下がったため、情報展と組み合わせる申請するようになった。巡検を組み合わせるなど新しい企画も含めて早急に検討する必要があるが、将来的に情報展、学術大会とも様々な地方での開催が望ましいという意見があった。

審議事項

1. 地学教育委員会メンバーの承認/ダイバーシティ委員会メンバーの承認
 - ・坂口理事から本年度の地学教育委員会の委員構成が示された。坂口有人(委員長)、浅野俊雄、阿部国広、大信田彦磨、高嶋礼詩、廣木義久、星博幸、松永豪、矢島道子、渡来めぐみ、藤原靖;11名)とする案が示され、承認された。
 - ・中澤理事から先の7月理事会で承認された本年度のダイバーシティ委員会の委員構成に加え、委員として武藤俊会員が1名追加する案が示され、承認された。
2. 研究奨励金規則(案)
 - ・内野理事から、寄付金に基づき新設された研究奨励金に関する規則(案)が示された。受給者の所属機関に間接経費を取られないように、奨励金の用途を直接経費に限定することを規則中または誓約書に明記するよう意見があり、対応することが確認され、規則案が承認された。
3. その他(IGC2024韓国大会について)
 - ・IGC2024韓国大会について、日本地質学会の協力に関する件で磯崎理事とウォリス前国際交流委員長から以下の通り経緯の報告

があった。

→2022年7月23日の理事会で現状報告の後、7月29日に韓国側とZoom協議を行い、竹島巡検を実施しないと合意。1週間後に正式な返事を得る予定だったが、その後音沙汰なく、8月に3回催促をし、9月9日に「宮下」会長、IUGS Ludden会長、ウォリス委員長宛に文書が届いた。内容は、竹島巡検は韓国側の事情で中止することを検討(considering)していること、日本海呼称問題は「East Sea/Japan Sea」を使用し、日本側は「Japan Sea/East Sea」を使用すること、であった。合意事項が反故にされ、宛名が14年前の会長になっているなど不誠実である。

→日本海の呼称については、摩擦回避のため国際水路機関(IHO)のコード表記を使用することを日本側から提案していた。本件は文科省、外務省に通知済み。「East Sea」を使用する場合には、産総研やJAMSTECなど国立研究開発法人に所属する者はIGC2024への参加は難しい。

- ・日本地質学会の対応としては、IGC2024へのSupporting Letterを取り下げることで、および学会として日本国内での巡検実施には協力しないことが考えられる。
- ・日本地質学会と大韓地質学会との間の学術交流協定(MOU)は、本年10月に失効するが、現状を鑑み、対応を別途検討することにした。
- ・上記の対応が承認された。

監事報告

1. 岩部監事より
IGC2024に関する韓国との問題は非常に重大である。個別の協力依頼があることが想定されるので会員への周知を速やかに行うと良い。
2. 山本監事より
早稲田大会の「学生・若手のための交流会」など、若手の活発な活動が印象的。日本地質学会の将来を見据えた若手のさらなる底上げが重要と感じている。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年10月5日

理事：議長 芦寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田誠
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星博幸
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名(省略)

2022年度第1回執行理事会議事録

日程：2022年7月9日(土)13:00-16:30

【WEB会議】

出席：岡田誠、杉田律子、星博幸、緒方信一、亀高正男、加藤猛士、内尾優子、松田達生、小宮剛、辻森樹、尾上哲治、高嶋礼詩、山口飛鳥、坂口有人、矢部淳、内野隆之
監事：岩部良子

欠席：中澤努、狩野彰宏

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、16の出席

報告事項

1. 全体的報告
 - ・新潟県で翡翠を「県の石」に指定するにあたって、県広報広聴課より学会へ意見聴取があり、同県を象徴するシンボリックな岩石として強く反対する理由はない旨回答した。
 - ・学会各種規則類の把握・整理・整備作業を進行中。規則の整備は着実に進めていくことが運営において重要である旨執行理事会内で改めて確認した。
2. 運営財政部会(亀高・加藤)
 - 1) 総務委員会
＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞
 - ・2022年度日本地球化学会第69回年会(2022/9/5-9/12、於高知大学、ハイブリッド)への共催依頼があり、承諾した。
 - ・新潟大学旭町学術資料展示館「ジオパークの大放散虫展」(2022/7/20-8/28)への後援依頼があり、承諾した。
 - ・神奈川県立生命の星博物館特別展「みどころ沢山!かながわの大地」(2022/7/16-11/6)への後援依頼があり、承諾した。
 - ・日本ゼオライト学会主催「第38回ゼオライト研究発表会」(2022/12/1-12/1;於徳島郷土文化会館)への協賛依頼があり、承諾した。
 - ・地学オリンピック日本委員会より2022年度協賛団体加入の依頼があり、承諾した。
 - ・2022年度朝日賞候補者推薦依頼(8/25締切、学会締切8/5)→geo-flash, ニュース誌7月号掲載
 - ・第44回(令和4年度)沖縄研究奨励賞推薦応募(9/30締切、学会締切9/5)→geo-flash, ニュース誌7月号掲載
 - ・第63回(令和4年度)東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦(10/7締切、学会締切9/12)→geo-flash, ニュース誌掲載
 - ・石油資源開発株式会社より役員就任のご挨拶があった(代表取締役社長 藤田昌宏氏ほか)
 - ・一般社団法人日本科学機器協会より役員変更の挨拶があった(会長 長谷川壽一氏ほか)

・一般財団法人建設工学研究所より代表理事変更の挨拶があった(代表理事 澁谷 啓氏)

<会員>

1. 今月の入会者(74名)

正会員(24名)由利厚樹, 藤原勇樹, 和田伸也, ミナリョウ デイナ, 中尾龍介, ラクシマナン スハリ, 大野顕大, 松野哲士, 林崎 涼, 平野光浩, 高橋大祐, 高澤拓夢, 米岡佳弥, 小笹直人, 小島隆宏, 野口咲紀, 佐々木聡史, 鄭址完, 浅見慶志朗(再), 石野沙季, 大久保英彦, 梶田展人, 飯嶋耕泰(再), 奥野淳一
正会員(院生割)(47名)内田泰蔵, 劉 承漢, 野口貴徳, 都丸大河, 岩見 丞, 梶原勘吉, 平子雅啓, 村上一成, 漆山 凌, 當山凜太郎, 高橋宏明, 高橋啓太, 山本知真理, 川上高平, 上村 葵, 山内彩華, 小田裕太, 船場大輝, 三谷陣平, 北澤亮大, 高橋瑞季, 田中凌悟, 長坂知佳, 飯島碩耶, 松元日向子, 小杉裕樹, 中村 希, 橘 隆海, 三國和音, 竹内美優, 水野 瞳, 新保陽輔, 志原早紀, 長門 巧, 村井亮太, 石寄美乃, 嶋池実果, 鈴木和馬, 西 玄偉, 佐々木佑二郎, 村田彬, 長尾亮佑, 矢崎 誠, 松浦三徳郎, 澤寄友彦, 神田橋知成, 大坪拓史

正会員(学部割)(3名)森 光貴, 照井孝之介, 辛島康大

2. 今月の退会者(4名)

正会員: 栗原 慧, 矢ヶ崎一浩, 高田雅介, 佐藤隆恒

3. 今月の逝去者(3名)

名誉会員: 石田志朗(逝去日: 2022年5月19日), 加藤 誠(逝去日: 2022年6月26日)

正会員: 菊池康浩(逝去日: 2022年5月31日)

4. 2022年6月末会員数

賛助: 27, 名誉: 40, 正会員: 3162 [うち, 正3092, 院割66, 学部割4], 合計: 3229 (昨年比-76)

<会計>

・2022年度地学オリンピック日本委員会より協賛団体加入にあたり, 予算通り協賛金4口20万円を送金する。

・日本地球惑星連合2022年度年会費(1万円), 日本技術者認定機構(JABEE)2022年度年会費(10万円), 土質・地質技術者生涯学習協議会(Geo-net)分担金(8万円)をそれぞれ納入した。

<その他>

・クラウドシステムは準備進行中。

3. 広報部会(内尾・松田)

1) 広報委員会(内尾)

・特になし

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2022東京・早稲田大会:

→7/2に早稲田大会プログラム編成委員会を開催した。現在, 口頭発表276件, ポスター81件, どちらでも32件, 全389件の講演の応募があった。大まかなプログラム案は終了し, 現在, 詳細を調整中。ポスターは9/10-11の2日間にわたって実

施予定。ポスター賞審査員は決定済み。

→7/7に業界説明会(対面ブース)会場の下見を行った。

→理事会で, ポスターのフラッシュトークを現地開催で実施してはという意見があったが, 行事委員会で協議した結果, 今回は見送り, ウェブ上でフラッシュトーク枠を設けることとした。

→巡検案内書の状況: 9コース中(受理・ほぼ受理5件/査読中(小修整)1件/査読中(中~大修正)2件/未投稿1件)

・2023京都大会: 巡検7コース(すべて日帰り), ワークショップ2コースが企画される。

・ショートコース: 運営チームメンバーを選出し(山口飛鳥, 矢部 淳, 亀高正男, 辻森 樹, 北村有迅, 納谷友規), 今後の企画について検討を開始する。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

特になし

3) 国際交流委員会(辻森)

・IGC巡検についてIUGSなど関係機関および韓国と協議継続中。

4) 地質標準化委員会(内野)

特になし

5. 編集出版部会(狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1) 編集状況報告(2022年7月8日現在)

・2022年投稿論文: 46 [内訳] 論説21(和文20, 英1), 総説5(和文5), ノート4(和文4), レター6(和文5, 英1), 報告1(和文1), フォト1(和文1), 巡検案内書8(昨年比+20)

査読中: 40, 受理済み: 7

・128巻: 公開済み15, 入稿・校正中8

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

特になし

3) 企画出版委員会(小宮)

・「地球のお話365日」(2018年12月技術評論社発行, 日本地質学会協力)が, 好評につき, 中国現地の出版社より簡体字中国語で出版されることとなった。

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会(高嶋)

早稲田大会におけるジュニアセッションの準備を進める。

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

・早稲田大会における地質系業界説明会は9月5日に開催する。学生だけでなく教員にも来場してもらえるように周知する。

・JABEE校宣伝ポスターを昨年に引き続き継続する。

3) 生涯教育委員会(矢部)

特になし

4) 地震火山地質子どもサマースクール(星)

特になし

5) 地質の日(矢部)

特になし

7. その他執行李事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会(中澤)

特になし

2) 若手育成事業検討WG(内野)

特になし

3) 表彰制度検討WG(中澤)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会(矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会(高嶋)

地学オリンピック日本委員会より問題作成者の推薦依頼があり, 会員1名を推薦した。

3) 支部長連絡会議(杉田)

特になし

4) 地質災害委員会(松田)

特になし

5) 名誉会員推薦委員会(星)

特になし

6) 各賞選考委員会(中澤)

特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会(辻森)

特になし

8) 連携事業委員会(中澤)

特になし

9) 法務委員会(中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会(委員長 小山内康人)

特になし

2) 法地質学研究会(委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

審議事項

1. 今期の各種委員会について(岡田)

各種委員会の今期の担当理事を確認し, 各委員会の状況を情報共有した。各委員会のメンバー案を次回理事会に上程する。

2. 会長代行の順位についての今期限りの理事会規則の変更(杉田)

一般社団法人日本地質学会理事会規則第3条第4項に定める通り, 理事会においては会長に事故があった場合に備え, 継承順位を定めることとなっている。年長の副会長が優先されることとなっているが, 該当する杉田は国家公務員であり, 法人の代表権を有する会長に就任することは困難と考えられる。よって, 理事会において, 今期の第一の継承順位は星副会長にあると決めて頂きたいと申し出があった。議論の上で申し出の通りに次回理事会に上程することとした。

3. 広報メディア運用規則案(内尾)

広報委員長より規則案が提案され, 字句等の修正およびSNSの運営方法について議論された。修正案をメールで確認したうえで次回理事会に上程する。

4. ニュース誌投稿記事への対応について(緒方)

ニュース誌投稿記事に対して, 広報委員会が一部内容が不適切と判断し, 著者へ修正を

要請したが、不服として異議申し立てがあった件について議論した。

5. 優秀講演賞の新設と優秀ポスター賞の廃止について (山口)

学術大会における優秀ポスター賞を廃して、口頭発表も含めた優秀講演賞(仮称)の新設が提案された。できるだけ早期実施を目指して詳細を詰めていくこととなった。継続審議とする。

6. 学術大会におけるコロナ対応 (高嶋)

感染者数の状況に応じた対応を議論した。9月の学術大会は対面での開催を目指す。コロナ関連で発表者が口頭会場に来られない場合、多数の講演キャンセルが出ることを防ぐため、Zoomによるリモート発表を認めることとする。会場の通信環境や費用、具体的な実施方法など詳細を詰めて、準備をすすめる。

7. 理事会審議事項の確認

次回理事会の審議事項を確認した。

監事コメント (岩部監事)

規程は廃止、修正、新規制定など時代に合わせて見直していくことが運営に重要である。ぜひ進めて頂きたい。

以上

2022年8月27日

一般社団法人日本地質学会
会長(代表理事) 岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2022年度第2回執行理事会議事録

日程：2022年8月27日(土) 13:00-16:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、星 博幸、中澤 努、緒方信一、亀高正男、加藤猛士、内尾優子、松田達生、小宮 剛、狩野彰宏、辻森 樹、尾上哲治、高嶋礼詩、山口飛鳥、坂口有人、内野隆之
監事：岩部良子

欠席：杉田律子、矢部 淳

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、16名の出席

報告事項

1. 全体的報告

・前回22-1議事録案について承認確定された。

2. 運営財政部会(亀高・加藤)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・公益財団法人山田科学振興財団2022年度研究援助(2/28締切)への地質学会推薦応募1件は不採択となった。

・公益財団法人中谷医工計測技術振興財団次世代系人材育成プログラム助成募集(応募期間10/1-11/20)【→ニュース9月号、

geo-flash掲載予定】

・公益財団法人藤原科学財団藤原セミナー募集(11/30締切)【→ニュース9月号、geo-flash掲載予定】

・JAMSTEC創立50周年記念式典及び研究報告会「JAMSTEC2022」開催案内(9/7オンライン開催)【→geo-flash掲載予定】

・第22回「こどものためのジオ・カーニバル」(11/5-6 於大阪市立自然史博物館)へ後援依頼があり、承認された。

<会員>

1. 今月の入会者(5名)

正会員(3名) 田所 明、木田梨沙子、佐々木亮道

正会員(院割)(2名) 橘 颯人、李 琪

2. 今月の退会者(1名)

正会員(1名) 三浦優奈

3. 今月の逝去者(1名)

正会員(1名) 浦川洋一(逝去日：2022年8月18日)

4. 2022年7月末会員数

賛助：27、名誉：39、正会員：3232[内訳正3116、院割109、学部割7]合計3298(昨年比-3)

<会計>

・防災学術連携体2022年度(2022.7-2023.6)の会費(3万円)を納入した。

<その他>

・会員システムのクラウド化について、会員アクセス画面の作りこみ改良中。今秋には稼働見込み。

3. 広報部会(内尾・松田)

1) 広報委員会(内尾)

・129年学術大会関連情報のプレスリリースのため資料を作成中(→審議事項へ)

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2022東京・早稲田大会準備状況：

→事前参加登録者数563、巡検申込者数125(Aコースを除いて8コース催行予定)

→巡検案内書(9コース)：公開済み1、入稿・校正中6、次回受理予定1、査読中1

→プレスリリース：ジェネラルセッション(応用地質・地質災害・技術)世話人の西山賢一氏より1件の推薦があった。行事委員・応用地質担当の山崎新太郎氏のレビューにより、プレス発表することとした。広報委員会を主体とし、その他の大会関連情報と合わせてリリース資料を準備中。(→審議事項へ)

→口頭発表に関して、新型コロナ感染者・濃厚接触者に対するZoom出演を認めることとしたが、同様にランチョンおよび夜間小集会での参加に対しても許可した。現在、新型コロナを理由とする1件の「みなし発表」の申請があった。

→ポスターフラッシュトーク19件(8/22締切)、地質学露頭紹介6件の申し込みがあった(9/3まで締切延長)。

→業界説明会について、学生事前申込は40名(9/2まで締切延長)。

・2023京都大会：市民講演会「京都とその周辺の地震活動」。2名の講師にて開催されるとの説明があった。セッション世話人はできるだけ若手会員に担当してもらいたい。来る理事会では、2023年京都大会についての進捗報告、2024年度は山形大会となる旨の報告を行う。

・ショートコース

特に報告なし。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

特に報告なし。

3) 国際交流委員会(辻森)

IGC37th巡検に関して、IUGSなど関係機関および韓国と協議を継続している。

4) 地質標準化委員会(内野)

特に報告なし。

5. 編集出版部会(狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1) 編集状況報告(2022年8月26日現在)

・2022年投稿論文：53[内訳] 論説26(和文25、英文1)、総説5(和文5)、ノート4(和文4)、レター6(和文5、英1)、報告2(和文2)、フォト1(和文1)、巡検案内書9
査読中：25、受理済み：18

・128巻：公開済み16、入稿・校正中14

(2) 地質学会年会に関連した地質学雑誌への論文投稿促進策について(→審議事項へ)

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

7月末時点でSubmission status 41編であり、レビュー論文のCited articles数の上位はレビュー論文が占めている。特集号の企画を期待している。

3) 企画出版委員会(松田)

特に報告なし。

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会(坂口)

委員会メンバーの再編について。(→審議事項へ)

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

早稲田大会での企業説明会では32社の企業・機関の参加が予定されており、説明会への学部生・院生の参加を促す声かけぜひお願いしたい。広報委員長より最初の声かけツイートをお願いすることとした。

3) 生涯教育委員会(矢部)

新しい委員会体制でのオンライン会議を8/11に行い、今期の課題と今後の役割分担を話し合った。

4) 地震火山地質こどもサマースクール(星)

浅間山での「浅間のいたずら、鬼のヒミツ」(8/17-18、2日間)が予定通り開催された。子どもの参加者は24名。次回開催地は神奈川県平塚市の予定。

5) 地質の日(矢部)

特に報告なし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)

特に報告なし。

2) 若手育成事業検討WG(内野)(→審議事